

平成28年9月 南魚沼市議会定例会
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質問者
1	3	田村 眞一
2	7	桑原 圭美
3	5	勝又 貞夫
4	15	中沢 一博
5	23	阿部 久夫
6	16	寺口 友彦
7	6	佐藤 剛
8	22	牧野 晶
9	18	岡村 雅夫
10	17	中沢 俊一
11	26	若井 達男
計		11名

【質問方式】（いずれも質問制限時間（答弁時間を含まない。）は30分）

一括質問一括答弁方式： 全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。
（初回は登壇して行い、質問回数は3回まで。）

一問一答方式： 質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

複合型一問一答方式： 一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。

質問 順位	質問 内 容
1	1 国民健康保険税の引き下げを
議席	
3	
田 村 眞 一 (複 合 型 一 問 一 答 方 式)	<p>格差と貧困の広がり、無職・非正規の方が多く占める国保加入者は厳しい現状に直面している。所得 300 万円の 4 人家族の国保税は年額 49 万円と、所得の 16%にも及ぶ。「国保は社会保障」の立場で、負担軽減、医療を受ける権利を保障することが必要とされる。「公平論」は市民の中に対立と分断を持ちこみ、問題の解決につながらない。国保の構造的問題の大元には、国庫負担削減を続けてきた国の医療費抑制政策にある。国の負担を減らした分は国保加入者と自治体に転嫁されるという構造が継続されてきた。静岡市では国からの保険者支援金 1,700 億円を使い、2 年連続で引き下げを実現している。「住民福祉の向上」「格差是正」という立場で国保税の引き下げを求め、以下市長に見解を求める。</p> <p>(1) 国保世帯の苛酷な実態への認識は。</p> <p>(2) 国保には医療をより必要とする年齢層が多いと考えるが。</p> <p>(3) 国保税を支払えるかどうかの視点はあるのか。</p> <p>(4) 市民の医療を受ける権利と被保険者資格証明書の発行は矛盾しないか。</p> <p>2 子ども医療費助成の対象を高校卒業まで拡充を</p> <p>(1) 子育て世代の実態についての認識は。</p> <p>(2) 県内の多くの自治体では実施しているが。</p>

質問 順位	質問 内 容
5	当市の財政運営について
議席	(1) 財政について
23	間もなく平成29年度の予算査定が始まる。市長は11月27日をもって勇退されるが、少なからず懸念される所である。当市の財政は自主財源33.2%、依存財源66.8%と大きく依存財源に頼っている。人口減少や基幹産業の低迷により、自主財源が望めない状況であり、国における「地方創生」の機運を今後とも継続していくためにも、地方交付税算定基準に関する意見を積極的に行っていくべきと考える。長い間市政運営に当たってきた中で、市長として国・県に対してどのような取組をしてきたのか伺う。
阿 部 久 夫 (一問一答方式)	<p>(2) 市債について</p> <p>財政問題として平成27年度の起債残高が一般会計、特別会計を合わせると911億7千万円ある。財政運営を行うにはどうしても市債に頼ることは不可避であるが、借金は必ず返済しなければならない。今後18歳以上の若者も選挙権があり、若い世代に与える負担度について、市民はもちろんであるが、若年層に分かりやすくかつ明らかにすることが責務と考える。平成27年度決算監査報告では一般会計の市債残高が平成30年度末には300億円台になると言われているが、将来見通しと財政状況についてどのように考えているのか伺う。</p> <p>(3) 歳出について</p> <p>合併特例債を活用した大規模事業も終わる中、平成28年度予算で市長は6項目を重点施策として編成した。市民の意識調査では住み続けたいが6割以上で、暮らしにくさや不安を感じるが、「雇用・収入」「医療・介護」「少子高齢化」の3項目で2割以上と高くなっている。今後、住み続けたい人が1人でも多く増加すれば市の発展に繋がる。時代に即応し政策転換した予算編成がされるよう期待するものであるが、市長のこれまでの市政運営を振り返り、将来を展望した見解を伺う。</p>

質問 順位	質問 内 容
7	<p style="text-align: center;">第2次総合計画実現のための第2次財政計画の意義と覚悟</p> <p>(1) 第2次財政計画の意義は。</p> <p>(2) 第2次総合計画実現に向けた第2次財政計画における覚悟は。</p> <p>(3) そのための中期計画と財政規律の必要性</p>
議席	
6	
<p style="text-align: center;">佐 藤 剛</p> <p style="text-align: center;">(一問一答方式)</p>	

質問 順位	質 問 内 容
8	井戸規制について
議 席	(1) どのような改正を考えているのか。
2 2	(2) 住宅だけなのか、それとも店舗や事業所もか。
牧	(3) 9月5日の本会議で、12月に条例改正をできるように市長の最後の政治決断として取り組む姿勢を表明したが、想定しているタイムスケジュールを。
野	(4) 揚水量規制の内容は。
晶	(5) 揚水量規制の対象は新規井戸だけなのか、既存井戸も含めてなのか。
(一問一答方式)	

質問 順位	質問 内 容
9	今、市民が望む市政は
議席	
18	
岡 村 雅 夫 (一問一答方式)	<p>7月10日投開票で行われた参議院議員選挙は、「自公と補完勢力」対「4野党＋市民」という構図で戦う、戦後かつてなかった選挙であった。我が党は、野党共闘の勝利と日本共産党の躍進という二つの大目標を掲げて戦った。新潟県でも野党共闘（6党2団体）が成立し、森ゆうこ氏が2,279票差で勝利しており、当市においても139票差で勝利した。この結果についての所見を伺う。</p> <p>私は、政治が民意と乖離してきたことが原因ではないかと考え、以下井口市政との論戦を顧みて最後の一般質問をする。</p> <p>(1) 基幹病院建設・開院での思いと今後の課題は。</p> <p>(2) 新ごみ処理施設建設計画では、行政主導でなく、市民との対話の姿勢が必要ではないか。</p> <p>(3) C C R Cは市民の理解を得られていない。苦肉の策の市有地提供ではないか。</p> <p>(4) 水道料金は近隣市町に合わせた財政計画にすべきではないか。</p> <p>(5) 子育て支援について</p> <p>①学校給食費の無料化に向けた取組が必要ではないか。</p> <p>②就学援助は、実態に合った利用を促すべきではないか。</p> <p>③市奨学金制度を拡充し、給付型奨学金の検討をすべきではないか。</p>

質問 順位	質問 内 容
10	<p>1 市職員を真の「戦力日本一」に</p>
議席	
17	<p>「南魚沼市職員のレベルは日本一」とは井口市長の常套句だが、それを測るモノサシはない。しかし、実現するには少なくとも次の2点が欠けている。市職員はまちづくりの最大の財産であり戦力であるが、人「財」育成の手法を以下2点に絞り問いたい。</p>
中 沢 俊 一 (複 合 型 一 問 一 答 方 式)	<p>(1) 財政基盤を直視した、自治体間競争力向上のための理念の錬磨</p>
	<p>(2) 先進事例、先進地等の原地調査への戦略的取組</p>
	<p>2 地下水条例を緩めるなら「S (サーベイ)」の徹底を</p> <p>六日町中心市街地の地盤沈下は南魚沼市のノドに突き刺さった骨である。地下水汲み上げ規制の条例施行より20余年。井口市長はこの条例を緩和し、市街地の空洞化に歯止めをかけるべく準備を進めてきたが、規制緩和への基礎調査が未だ充分とは思えない。以下2点につき議会人が納得できるレベルの学術的裏付けを求める。</p> <p>(1) 当該区域における、納得し得る規模の下水道管ダメージ調査</p> <p>(2) 大深度地質調査の早期実施とデータ公開</p> <p>(3) 大深度における水平方向水脈の存在及び水移動の確認</p>

質問 順位	質問 内 容
1 1	<p style="text-align: center;">井口市政 1 2 年間を省みて</p> <p>(1) 合併、新市誕生について</p> <p>(2) 災害取組対応は如何に。</p> <p>(3) 教育の取組について</p> <p>(4) 市財政運営について</p> <p>(5) スポーツ健康都市宣言市として取組は如何に。</p>
議 席	
2 6	
若 井 達 男	
(一問一答方式)	